

平成 14・15 年度河川整備基金助成事業

EXCEL/PDIC 対応 **河川・水資源日英用語集**
(Version 2004/5)
解説書

河川・水資源日英用語集編集委員会

東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 ECK ビル 3 階

社団法人 日本河川協会内

Tel. : 03-3238-9771

2004 年 5 月

EXCEL/PDIC 対応 河川・水資源日英用語集

Version 04/5 の発行に際して

2003 年 7 月に「EXCEL/PDIC 対応河川・水資源日英用語集 version 03/6」を公表し、爾来多数方々にご利用いただきました。今回発表しました version 04/5 は、新しい用語と日本語の読みを追加したものです。前 version に引き続きご利用いただければ幸いです。

1. はじめに

21 世紀は水の世紀といわれて久しい。人口の増加と経済の発展に伴い、水資源の供給が追いつかないことが懸念され、また一方では地球の温暖化に伴い気象の時間的、空間的変動の幅が増大し、これまでも増して、干ばつ、洪水が多発することが心配されている。この様に河川、水資源への人々の関心が高まっており、河川、水資源のもたらす恵みを増強し、災害を小さくする努力が各方面で求められている。

このような状況を踏まえ、河川整備基金の助成を得て、国際的な交流の促進を目的として、河川・水資源及びこれに関連する分野の和英用語集の作成に着手した。用語集の作成に際しては、パソコンの普及を考慮して、EXCEL とパソコン上で各種辞書を並行して使用できる PDIC (Personal Dictionary) に対応するものを作成することとした。2003 年 7 月

河川・水資源日英用語集編集委員会

代表 玉光 弘明

2. 用語集作成方針

本辞書は次の方針で作成した。

- 1) 河川、水資源及びその周辺分野における既存の辞書を電子情報として統合する。
- 2) 新たな概念、理論に関連する用語を積極的に収集する。
- 3) 用語の訳語は、明かな誤りを除いて、できるだけ収録することとして、適切な訳語の選択は利用者に委ねる。
- 4) 用語の説明、解説は他の辞書、用語集に委ねる。
- 5) 収集された用語集は、Excel の形で纏めるとともに、辞書ソフト PDIC で利用できるようにする。
- 6) 成果は一般に無償で提供することとし、(社) 日本河川協会、(社) 国際建設技術協会の Homepage 上で公開する他、関係団体の Homepage ともリンクする。
- 7) 利用者からの新語情報、誤りの指摘を e-mail で収集し、定期的な更新に努める。

3. 参照辞典、用語集

本用語集の作成に当っては、以下の用語集、辞書を参考にした。

出典 Code	図書等名	編集・発行	語数
(1-)	平成 13 年度 河川用語集改訂業務報告書	(社)国際建設技術協会	6,970
(2)	水文用語集	科学技術庁資源調査所編 (財)水利科学研究所発刊	3,700
(3+)	水理公式集	(社)土木学会	1,331
(4+)	地形学事典	二宮書店	6,383
(5)	学術用語集 気象学編	文部省	2,241
(6-)	測量関係用語集	地理院(内部資料)	6,257
(7)	JICA 開発調査環境配慮ガイドライン(河川・砂防、地下水開発、上水道、下水道)	国際協力事業団	768
(8+)	ダム技術用語辞典	(社)日本ダム会議(S57 年)	3,140
(9-)	WEC 版日英ダム水源環境整備用語辞典	(財)ダム水源環境整備センター	1,285
(10)	英和・和英 砂防関係用語集	NPO 法人砂防広報センター編集 (財)砂防・地すべり技術センター発行	6,313
(11+)	灌漑排水多国語技術用語辞典	ICID(S58 年)	11,761
(12)	土地改良技術用語集	OTCA(S44 年)	9,034
(13+)	下水道用語集	(社)日本下水道協会	5,453

(14+)	水道用語集	(社)日本水道協会	6,239
(15-)	建設行政ハンドブック(建設関係仮訳目次)	(社)国際建設技術協会	177
(16)	建設行政の電気通信用語集	(社)建設電気技術協会	142
(17)	注釈 河川法(巻末用語集)	(社)国際建設技術協会	204
(18)	日本河川地図	(社)国際建設技術協会	109
(19-)	用語一覧表(河川用語大辞典 研究所報告)	(財)リバーフロント整備センター	301
(20)	契約社会アメリカにみる建設工事のクレームと紛争	(社)国際建設技術協会	214
(21)	国際化時代の建設用語	(社)国際建設技術協会	1,937
(22)	国土交通省組織官名英文標記	国土交通省 Home Page	604
(24)	現代の林学⑥ 森林水文学	塚本良則編、文永堂出版刊	171
(25)	国際協力便覧 2001	国際協力銀行	48
(26)	雑誌「河川」	(社)日本河川協会	510
(27)	砂防学会誌	(社)砂防学会	203
(91-)	河川環境管理財団用語集	(財)河川環境管理財団	313
(93-)	WWF3関係資料	WWF3事務局	184
(94-)	その他	(社)国際建設技術協会	231

出典 Code 無印:解説なし、公開資料 +:解説あり、公開資料 -:非公開、内部資料

4. 河川・水資源日英用語集CDROM内容

上記資料をもとに約 73,000 語を EXCEL 上に集積し、重複を除去した結果、日英の組み合わせとして約 59,000 対の語彙を集積した。

File-1 EXCEL 対応河川・水資源日英用語集 1May04

既存の 2 2 の用語集などから採取された約 7 3 千語の重複を省き、「用語（和）」、「用語（英）」、「出典 Code」、「カナ」、「ローマ字」を EXCEL 上で整理したもの。通常の辞書としての使用には File-2 をすすめるが、出典の検索にはこの File が使用できる。

File-2a PDIC 対応河川・水資源日英用語集 1May04

上記 File を、「用語（和）」から「用語（英）」に PDIC に対応する形で整理したもの。

File-2b PDIC 対応河川・水資源英日用語集 1May04

上記 File を、「用語（英）」から「用語（和）」に PDIC に対応する形で整理したもの。

4. 辞書ソフト PDIC について

PDIC(Personal Dictionary)は、西川貴博氏が電子辞書をパソコン上で活用するために開発したシェアウェアである。ソフトウェアは有償で公開されており、廉価（2003 年 3 月現在、1,000 円）で誰でも利用できる。既に PDIC に対応する辞書はいくつか出されており、中でも活用さ

れているのが、100 万語を収録する「英辞郎」である。PDIC、英辞郎の詳細な説明は他の参考書に譲るとして、豊富な語彙とカーソルを当該用語に移動するだけで該当する訳語が表示される機能は従来の紙辞書を遥かに越えるものである。PDIC としての使用については、「河川・水資源日英用語集利用方法」を参照のこと。

5. 使用上の注意

- 1) 日英、英日の双方向検索を可能とするため、1 語に対して複数の訳語がある場合は、それぞれ独立した用語として整理してある。
- 2) 漢字、カタカナ、ひらがなの使い分け及び送り仮名は原則として、参考とした文献の表記を尊重した。従って、複数の表記がある用語については、いくつかの表記方法で検索する必要がある場合がある。
- 3) 日本語の読みについては複数考えられるものについては/で区分して複数表示してあります。読みから用語を、用語から読みを調べる場合には EXCEL 版の検索機能をお使いください。
- 4) 出典に+のついた用語の解説については、原典を参照されたい。
- 5) 本用語集は、Excel 上で検索することも可能であるが、PDIC を使用されることをお勧めする。

6. 河川・水資源関連分野の和英用語集編集委員会

代表 玉光 弘明 (社) 国際建設技術協会

委員 (五十音順)

安養寺信夫 (財) 砂防・地すべり技術センター

梅本 良平 (財) 河川情報センター

臼井 陽典 日本建設コンサルタント(株)

大町 利勝 (社) 国際建設技術協会

岡野 眞久 (財) ダム水源環境整備センター

乙井 康成 (社) 国際建設技術協会

折敷 秀雄 (財) 国土技術研究センター

紀陸 富信 (社) 日本河川協会

桑原 紀博 (財) 河川環境管理財団

是枝 伸和 (株) 建設技術研究所

舘澤 三郎 (社) 日本河川協会

徳永 良雄 (財) ダム技術センター

林 真由 (社) 国際建設技術協会

藤芳 素生 (財) 河川環境管理財団

松井 宗広 (財) 砂防・地すべり技術センター

松村 恭一 大日本コンサルタント(株)

松永 雄紀 (株) ニュージェック

水野 雅光 (財) リバーフロント整備センター

向井 清孝 共和コンクリート工業(株)

山本 晃一 (財) 河川環境管理財団

渡邊 弘毅 日本建設コンサルタント

乙井 康成 (社) 国際建設技術協会

7. 利用者の皆様へのお願い

新しい用語は日々追加して行く必要があります。また、多くの辞書、用語集を参考にしたとはいえ、不十分な分野もあります。このため、本用語集に収録されていない用語、あるいは明らかな誤りに気付いた場合は、下記宛 mail でご連絡下さい。

idi01@idi.or.jp ((社) 国際建設技術協会 大町)

8. 謝辞

新たな概念や理論は新たな用語を生み出し、用語を軸に新たな発想が展開されてきました。また、国際交流の場では、異なる言語体系を結ぶ辞書が必要です。このため、辞書には用語を同じ言語で解説するタイプのものと、異なる言語を関連付けるタイプのものがあります。用語の理解と国際的なコミュニケーションのためには、双方の辞書が必要ですが、本用語集は後者に属するものです。

もとより、辞書の作成には多くの人々の協力と膨大なエネルギー、執着心が必要です。このため、既存の辞書、用語集を安易に参考にすることについては躊躇するところもありました。しかし、文書の作成が電子化された今日、適切な訳語を探すために複数の辞書を探す労力と時間の無駄

を考え、先人達の努力を基礎にこの用語集を作成することと致しました。関係の皆様の寛大なご理解をお願い申し上げます。中でも、既に絶版になっている「水文用語集」のクリアコピーを提供頂いた（財）水利科学研究所、貴重な用語集を電子媒体でご提供頂いた、（財）砂防地すべり技術センター、（社）日本下水道協会、（社）日本水道協会に対し厚く御礼申し上げます。

この様なご協力があったとはいえ、一定の様式で用語を電子化することは大きな作業でした。東京大学、芝浦工業大学、上智大学の学生、OB、OG諸氏には有償ボランティアとしてこれらの作業にあたってくださいました。いちいち名前は記しませんが、単調な作業を精力的に行っていたことに対し改めて感謝申し上げます。

最後に、本事業に対して助成を頂きました、河川整備基金に対し深甚なる感謝を申し上げます。

本用語集がわが国の水文研究、水資源の利用と管理および国際交流の発展にいささかでも貢献できることを期待致します。ありがとうございました。